

## ニュースの共有 – BPA は安全です!



[Steven Hentges, Ph.D](#)

2018年4月23日(月) [SAFETY](#)

私たち皆がBPAに曝露していることは秘密ではありません。米国疾病対策予防センター(CDC)等が行った[広範な研究](#)により、私たちは毎日摂っている食事や消費者製品からどれだけのBPAに曝露しているかがわかります。

しかし現在、私たちは消費者として、私たちが経験している典型的な低レベルのBPA曝露について心配する必要がないことも知っています。わずか数週間前、米国国家毒性プログラム(NTP)はBPAでこれまで実施された最大の研究[報告](#)を発表しました。米国食品医薬品局(FDA)の上席研究員によって行われた、いわゆる[CLARITY コア研究](#)の結果は、私たちが一生涯BPA曝露を受け続けてもBPAが害を及ぼす可能性はほとんどないことを示しています。

CLARITY コア研究の結果はFDAが速やかに私たちに[公式声明](#)伴った結果を通知したほど非常に重要なものでした。この声明の中でFDAは「我々の初期レビューでは、現在認められたBPA 使用法は、引き続き消費者にとって安全であると言う我々の決定を支持しました。」と述べました。

この情報を得られたからには、私たちはどうすればいいのでしょうか？特に私たちはこの情報を友人や家族と共有すべきでしょうか？

このタイプのどの情報を共有し、共有しないかを決定する方法は、最近 International Journal of Research in Marketing 誌に掲載された[研究](#)で詳しく調査されました。オランダとトルコの大学の研究者等は、製品が私たちに害を与える可能性について肯定的または否定的な情報をどのように共有するのだろうか、また自己解釈および自己関連性がどのように影響するかに焦点を当てました。

研究者等とはある西ヨーロッパの大学で学生ボランティアと共に一連の対照研究を行いました。各研究では、生徒はまず製品について肯定的または否定的な情報を与えられた後、情報を共有する可能性を評価するためにさまざまな方法で監視されました。対照研究の中の1つにBPAに関連する製品情報が含まれています。

情報が共有される可能性があるかどうかに影響を及ぼした要因の一つには、自己関連性の概念が含まれます。特にその情報が学生や友人や家族に関連しましたか？

第二の要因は、自己解釈の概念です。特に、学生は自分自身を他者との関係において独立しているか相互依存していると見なしましたか？ 即ち、学生は自分自身を個人として、あるいはグループのメンバーとして考えましたか？ です。

これら双方の要因は、肯定的または否定的な製品有害情報が共有される可能性があるかどうかに影響を与えました。情報に自己関連性があり、情報を受け取る人が他者との関係を相互依存関係にあると見なすならば、情報は共有される可能性が高くなります。

この研究では情報共有に影響する要因を検討しましたが、情報をいつ共有すべきかについての提言は行いませんでした。この場合、私たちは微量レベルのBPAに暴露し、潜在的にリスクにさらされていることがわかっているので、BPAが害を及ぼす潜在的可能性に関する重要な新情報は、確かに自己関連性があります。

同じ理由で、情報は私たちの友人や家族に関連しています。BPAが害を及ぼす可能性に関するこの重要な新しい情報はどう扱ったらよいのでしょうか？ 研究結果に従って遠慮なく共有しましょう。